

ひめじ創生SDGsカフェ 深掘りフォロー会議

開催日時：令和4年11月2日(火)16:30~18:30
会場：イーグレひめじ4階 第1・第2会議室
主催：姫路市

若者が姫路のまちの未来について話し合うタウンミーティング「ひめじ創生SDGsカフェ深掘りフォロー会議」（姫路市主催）がイーグレひめじで開かれた。まちの活性化や社会課題解決のアイデアを若い世代から募って施策に生かそうと姫路市が2016年に始めた取り組みで、参加したのは高校生を中心とした10代～30代の13人。8月の本番会議で集まったアイデアから、「観光」と「子育て・保育」のテーマに絞り、自由に意見を出し合い地方創生につながるアイデアをまとめた。今回の「深掘りフォロー会議」はテーマを掘り下げ、ひめじ創生やSDGs（持続可能な開発目標）につながる具体策へとする目的で開催。二班に分かれ市職員も交えて話し合い、事業概要とその手法のほか、どんな効果が期待できるかを、SDGsの17の目標に当てはめて発表した。



姫路市政策局地方創生室
山内真知子主幹

あいさつ

主催者を代表して、姫路市政策局地方創生室の山内真知子主幹が「今回のテーマである「観光」と「子育て・保育」は姫路市にとってどちらも重要な課題になります。ぜひ皆さんの「こんなものがあっていいのにな」や「こんなことができたなら、姫路のまちがもっと良くなるかもしれない」というアイデアを出してほしい」とあいさつ。会議におけるイラストの議事録を担うグラフィックレコーダーの三名氏は「議論を可視化して、あとから見た人も、まるでその議論に参加したかのようなイラストレーションをするのがグラフィックレコーダーです。今日は皆さんの和気あいあいとした空気感も描きたいと思います」とあいさつした。



グラフィックレコーダー
三名あだし氏





A班 テーマ：「子育て・保育」

事業名：こども未来つくる園

◆事業概要

ハード・ソフト両面でSDGsに則った保育所を設立する

- ④SDGsが自然に学べるような絵本を作る
- ④小・中・高校との連携授業
- ⑤ジェンダーフリーを意識した制服を作る
- ⑦自然エネルギーの利用
- ⑨園の設備やおもちゃに、市内産の木材（杉）を使う
- ⑫畑を使って、野菜を育てる
- ⑫電気や水道の使用量、食品ロスの見える化
- ⑬複数の園を巡回するバスルートの設定（登園、降園、昼間のプチ遠足）



◆手法

- ・子供へ伝える方法を考える
- ・再生紙を使った絵本を作る
- ・中学校の総合の時間を有効に活用（保育園との連携事業）
- ・地元の小売店（制服販売店など）への依頼・連携
- ・建物に太陽光パネルを設置
- ・他業種と連携...林業、専門学校、学校など
- ・地域の人材や、資源を活用する（休耕田の活用、アドバイザーとして起用）
- ・燃料電池バスの利用（神姫バスと連携）



◆効果

- ・地域に対しての愛着がわく
- ・環境に興味のある人が、姫路市に興味を持つきっかけになる
- ・子どもに教えることにより、人材が育ち今後の発展につながる
- ・他業種と連携、学生と連携することで、一体感が生まれ、活気があふれる
- ・子どもたちがSDGsに興味をもつ
- ・地域の人とつながり視野が広がる
- ・SDGsに特化している保育園がまだ少ないと思われるので、注目されると通わせたいと感じる親も増えて人口増にもつながる
- ・小さい時からSDGsに触れることで、自然なことであると感じてもらえる

テーマは「子育て・保育」。地域の人材や資源を、設備やおもちゃ、学習、給食に取り入れることで、地域への愛着や環境・SDGsへの興味喚起を小さなころから育むことができ、移住定住促進へつながる。地域が一丸となって協力して取り組むSDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」に当てはめた。



B班 テーマ：「観光」

事業名：Americanfamily tour BE SAMURAI

◆事業概要

英語圏の外国人家族をターゲットにした

『姫路城～書写山までの現在あるものを活用したツアー』を創設

- ・姫路城までの商店街全体の外観デザインを統一感あるものに
- ・圓教寺では日本文化に触れられるよう外国人に人気のある写経や、座禅を行う
- ・ハイキングや山のカフェで自然も満喫
- ・子供も楽しめるようにコスプレなど忍者や侍体験ができるコンテンツを開発
- ・買い物に付加価値を付ける
- ・オーバーツーリズム対策として、ゴミを捨てると音（「シャキン」などSAMURAIばい音）が鳴るゴミ箱を設置する



◆手法

- ・外国人観光客に、何で知ったかなどアンケートを聴取する
- ・外国人向けのアンケートサイトを作る
- ・二次元コードを使い、スマホで簡単なアンケートをとる
→更に欲しいものなどを聞く
- ・水素バス・電気自動車などを移動で利用（企業と連携）
- ・海外の旅行会社と連携
- ・インスタグラマーや外国人を招待し、感想をSNSにUPLしてもらう
- ・SNSでお店を紹介すると割引やサービスが受けられるよう街全体で連携



◆効果

- ・観光で経済を潤す
- ・日本人だけでなく外国人観光客もたくさん来ることで地域が活性化される
- ・姫路の観光地に新たな付加価値が付く
- ・観光客自身がSNSをUPLし、それを見た外国人に「また行こう、行ってみたい」と感じてもらうことで好循環が生まれる
- ・機能美を備えつつ、風情がある昔の景観が楽しめるようなスポットが出来る
- ・マナーの問題にも留意する。地元住人の反対をもらわないように

テーマは「観光」。英語圏の外国人ファミリーをターゲットとし、訪日外国人からも人気の「写経」「座禅」「忍者」「侍」などの日本文化を多く取り入れることで、未来につながる新たな観光のカタチを提案。観光資源の保全を目的とした刀の斬撃音が鳴るゴミ箱の設置など、オーバーツーリズム対策にも配慮。SDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標達成を目指した。